

Oracle® Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0

機能更新およびリリースノート



Copyright © 2009, 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS. Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは, Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は, Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

このマニュアルの使用方法 ix

1. ILOM 3.0 機能セット 1

ILOM 3.0 機能セットの概要 1

 サーバー固有の ILOM 機能 2

 CMM 固有の機能 2

 CMM シャーシレベル管理 2

ILOM 3.0 の関連ドキュメント 3

2. ILOM 3.0.3 ファームウェアに対する更新 5

ILOM 3.0.3 の新機能 6

ILOM 3.0.3 の時点で解決済みの問題 7

 国際キーボードでの Alt Graph キーの機能 8

 Web インタフェースでファイルをアップロードするときに「Browse」
 ボタンが表示されない 8

 SSH キーを新しく生成したときに SSH サーバーの再起動が必要 9

 SSH ホストキーをロードするとエラーメッセージが表示される 9

 IP アドレスを使用する電子メールアドレスが警告管理ルールのクエリーで受
 け入れられる 9

 CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによってはク
 ロックが正しく再計算されない (SPARC サーバー) 10

ILOM 3.0.3 の時点で既知の問題 10

SP 再起動後、BIOS アップグレードがすぐに行われぬ 11

外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセットされない 12

1 時間ごとの平均電力のタイムスタンプに 1 時間未満の増加分が反映されない 12

バックアップ/復元後に SSH キーの復元に失敗する 13

3. ILOM 3.0.4 ファームウェアに対する更新 15

ILOM 3.0.4 の新機能 16

ILOM 3.0.4 の時点で解決済みの問題 18

デフォルトの役割が none に設定されているときに LDAP または RADIUS のコマンドが動作しない 19

dnslocatorquery レコードを Active Directory 設定から削除できない 19

CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによってはクロックが正しく再計算されない (x86 サーバー) 19

スナップショットユーティリティー実行時にデバッグ用のログファイルが欠落する 20

ILOM CLI で set /{target}/config dump_uri を実行するときに確認メッセージが表示されない 20

/SYS の読み取り専用プロパティの役割に関するヘルプテキストが間違っている 21

電源管理プロパティに関するヘルプテキストが間違っている 21

<TARGET> <property> <property> のヘルプ出力の内容がわかりにくい 22

ヘルプテキストの値が不正確: /SP/users/root/ssh/key/1-5 23

ILOM 外部シリアルポートのフロー制御が正しく実装されていない 23

読み取り専用プロパティの CLI 自動補完機能が Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーでは動作しない 23

ILOM 3.0.4 の時点で既知の問題 24

Windows クライアントで CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトするときに ILOM リモートコンソールがハングすることがある 24

ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない 25

- 4. ILOM 3.0.6 ファームウェアに対する更新 27
 - ILOM 3.0.6 の新機能 28
 - ILOM 3.0.6 の時点で解決済みの問題 28
 - SMTP テスト警告電子メール通知を送信できない 29
 - SSH の無効化後に CMM からサーバーモジュールにナビゲートできない 29
 - 電源管理イベントがログファイルに記録されない 29
 - ILOM 3.0.6 の時点で既知の問題 30
 - ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない 30
 - 設定作業後のアクセスページエラーシステムを IPMItool から監視するときに不明なセンサー LED ステータスが表示される 31
 - バックアップと復元の実行後にコンソールエラーが表示される 31
 - ILOM Power Management で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 によってシステムイベントログに警告メッセージが生成される 31

- 5. ILOM 3.0.8 ファームウェアに対する更新 33
 - ILOM 3.0.8 の新機能 34
 - ILOM 3.0.8 の時点で解決済みの問題 35
 - ILOM CLI での無効なタイムゾーン設定 36
 - スナップショットのプロパティがリセット後に保持されない 36
 - ILOM 3.0.8 の時点で既知の問題 36
 - Storage Redirection が 64 ビット JRE ではサポートされない 37
 - ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生する 37
 - HIA を使用して ILOM を帯域内管理インタフェースからアップグレードするときに ILOM のバージョンが表示されない 38

- 6. ILOM 3.0.9 ファームウェアに対する更新 39
 - ILOM 3.0.9 の新機能 40
 - ILOM 3.0.9 の時点で解決済みの問題 40
 - ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない 41
 - ILOM 3.0.9 の時点で既知の問題 42

- SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる 42
- 無効なヘルプコマンド (help /SP system_contact=test) を実行すると役に立たない出力が表示される 43
- IE Web ブラウザのセキュリティーオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティーで SP のデータを収集できない 43

- 7. ILOM 3.0.10 ファームウェアに対する更新 45
 - ILOM 3.0.10 の新機能 46
 - ILOM 3.0.10 の時点で解決済みの問題 47
 - 無効なヘルプコマンド (help /SP system_contact=test) を実行すると役に立たない出力が表示される 47
 - IPMItool sunoem CLI はすべてのセッションスロットがビジーのときに拒否されることがある 48
 - ILOM 3.0.10 の時点で既知の問題 48
 - Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトに失敗し、手動マウントが必要になる 49
 - Storage Redirection CLI サービスを正常に起動するには 32 ビット JDK が必要 49
 - ILOM リモートコンソールを正常に起動するには 32 ビット JDK が必要 51
 - Internet Explorer 6 を使用しているときに ILOM Web インタフェースから SP に接続できない 53

- 8. ILOM 3.0.12 および ILOM 3.0.14 ファームウェアに対する更新 55
 - ILOM 3.0.12 および ILOM 3.0.14 の新機能 56
 - ILOM 3.0.14 の時点で解決済みの問題 57
 - SP 再起動後、BIOS アップグレードがすぐに行われぬ 58
 - 外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセットされない 59
 - 1 時間ごとの平均電力のタイムスタンプに 1 時間未満の増加分が反映されない 59
 - CD-ROM イメージやフロッピーイメージをリダイレクトするときに、Windows クライアントで ILOM リモートコンソールが停止することがある 59

- ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない 60
- 設定作業後のアクセスページエラー: システムを IPMItool から監視するときに不明なセンサー LED ステータスが表示される 60
- バックアップと復元の実行後にコンソールエラーが表示される 60
- ILOM Power Management で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 によってシステムイベントログに警告メッセージが生成される 61
- ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生する 61
- HIA を使用して ILOM を帯域内管理インタフェースからアップグレードするときに ILOM のバージョンが表示されない 61
- SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる 62
- IE Web ブラウザのセキュリティーオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティーで SP のデータを収集できない 62
- Storage Redirection には 32 ビット JDK が必要であることを説明するドキュメントの更新 63
- ILOM リモートコンソールには 32 ビット JDK が必要であることを説明するドキュメントの更新 63
- Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトに失敗し、手動マウントが必要になる 63
- Internet Explorer 6 を使用しているときに ILOM Web インタフェースから SP に接続できない 64
- ILOM 3.0.14 の時点で既知の問題 64

このマニュアルの使用法

この『機能更新およびリリースノート』では、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) ファームウェアに対して ILOM 3.0 リリース以降に追加された機能拡張について説明します。

ILOM の更新バージョンは一般に、2-3 か月間隔でリリースされます。ILOM 3.0.x の新機能のうち、すべてのラックマウントサーバーとサーバーモジュール (ブレード) に共通のものについては、このドキュメントで説明します。このドキュメントの各章では、ILOM 3.0.x の各リリースでの ILOM の新機能と問題について説明しています。

このドキュメントは、ネットワーキングの概念および基本的なシステム管理プロトコルについての知識があるシステム管理者を対象としています。

関連ドキュメント

このガイドに記載されている情報を完全に理解するには、このガイドとともに、次の表に示すマニュアルを使用してください。これらのマニュアルは、次の Web サイトからオンラインで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

次の表に、ILOM 3.0 のマニュアルセットの一覧を示します。

タイトル	コンテンツ	パーツ番号	形式
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』	ILOM の特長と機能に関する説明	820-7370	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』	ネットワーク接続、初回の ILOM へのログイン、およびユーザーアカウントやディレクトリサービスの設定の説明と手順	820-7382	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』	ILOM Web インタフェースを使用して ILOM 機能にアクセスするための説明と手順	820-7373	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』	ILOM CLI を使用して ILOM 機能にアクセスするための説明と手順	820-7376	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』*	ILOM 機能に SNMP、IPMI、または WS-Man と CIM を使用してアクセスするための説明と手順	820-7379	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) CMM 管理ガイド – Sun Blade 6000/Sun Blade 6048 モジュラーシステム』	CMM 固有の ILOM 機能にアクセスするための説明と手順	821-3083	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル』	プラットフォーム固有の ILOM 補足ドキュメント (共通またはプラットフォーム固有の ILOM 3.0 機能のサポートの説明)	使用するサーバーに対応するプラットフォームマニュアルセットを参照	PDF HTML

* ILOM 3.0.8 の時点で、SNMP および IPMI の手順ガイドの名前は『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』に変更されました。

ILOM 3.0 のマニュアルセットに加えて、関連する ILOM の補足マニュアルや管理マニュアルにも、サーバープラットフォーム固有の ILOM の機能およびタスクの説明があります。ILOM 3.0 のマニュアルセットとともに、サーバープラットフォーム付属の ILOM の補足マニュアルまたは管理ガイドマニュアルを使用してください。

ILOM のドキュメントの一部については、この表の前に記載されている Web サイトで翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

次のサイトで追加の情報を参照できます。

- マニュアル: <http://docs.sun.com/>
- サポート: <http://www.sun.com/support/>
- トレーニング: <http://www.sun.com/training/>

ドキュメントのコメント

このドキュメントに関するコメントは、次のサイトで「Feedback [+]」リンクをクリックしてお送りください。

<http://docs.sun.com>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルとパーツ番号を記載してください。

『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』、
part number 821-0647-11

第1章

ILOM 3.0 機能セット

この章では、Oracle ILOM 3.0 機能セットについて説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 1 ページの「ILOM 3.0 機能セットの概要」
 - 2 ページの「サーバー固有の ILOM 機能」
 - 2 ページの「CMM 固有の機能」
 - 2 ページの「CMM シャーシレベル管理」
- 3 ページの「ILOM 3.0 の関連ドキュメント」

ILOM 3.0 機能セットの概要

Oracle ILOM 3.0 機能セットは、Oracle Sun Blade モジュラーシステム、サーバーモジュール (ブレード)、およびラックマウントサーバーのすべてに適用される共通の ILOM 機能をまとめたものです。これらの機能は、ILOM 3.0.x ファームウェアに組み込まれています。3.0.x ファームウェアは、サーバーサービスプロセッサ (SP) にインストールされ、該当する場合はシャーシ監視モジュール (CMM) にもインストールされます。

注 – CMM は、Oracle Sun Blade モジュラーシステムに適用されます。CMM は、Oracle のラックマウントサーバーには適用されません。

サーバー固有の ILOM 機能

ILOM 3.0.x SP ファームウェアは、Oracle の多数のサーバープラットフォーム上で動作します。すべてのプラットフォームに共通の機能に加えて、Oracle サーバーに固有のその他の機能もサポートします。使用するサーバーに対してサポートされる ILOM 3.0.x の機能に関する追加情報については、サーバーに対応する ILOM 補足マニュアルまたは管理ガイドを参照してください。

CMM 固有の機能

シャーシ監視モジュール (CMM) 上の ILOM 3.0 ファームウェアには、個別の IP アドレスが設定されます。このアドレスは、静的に割り当てられることも、DHCP を使用して動的に割り当てられることもあります。CMM は、サーバーモジュールの ILOM 設定に対する「コンジット」の役割を果たします。つまり、ネットワークアドレスや管理者ユーザーアカウントのような設定項目の変更や表示は、CMM を通して行われます。

さらに、CMM によって HTTP および CLI の「パススルー」インタフェースがサポートされるので、CMM の直接シリアルポート接続または 10/100/1000-BASE-T ネットワーク管理ポート接続を介して、すべてのシャーシ機能にアクセスすることができます。

CMM シャーシレベル管理

CMM 上の ILOM には階層構造の管理アーキテクチャーが採用されており、システム管理はコンポーネントごとに行うことも、複数のコンポーネントをまとめてシャーシレベルで行うこともできます。

CMM の主な管理機能は次のとおりです。

- IPMI サテライトコントローラの実装。シャーシ環境センサーがサーバーモジュールの BMC 機能によって認識されるようになります。
- 環境およびインベントリの直接管理。CLI、Web、SNMP、および IPMI のインタフェースを使用して行います。
- CMM、Network Express Module (NEM)、およびサーバーモジュール SP のファームウェア管理。
- サーバーモジュールと HTTP リンク、および CLI SSH コンテキストのパススルー管理。
- シャーシ電源の制御。
- 次のコンポーネントへのアクセス:
 - シャーシ
 - 電源装置
 - ファン
 - Network Express Module (NEM)
 - サーバーモジュール SP

ILOM 3.0 の関連ドキュメント

このマニュアルでは、新しい ILOM 3.0.x リリースの新機能と問題について説明します。このマニュアルの各章には、ILOM 3.0 のマニュアルセット内のドキュメントへの相互参照が含まれており、新しい ILOM ファームウェア更新で追加された ILOM 機能を詳しく説明しています。

このマニュアルを使用するときは、内容を十分に理解できるように、ix ページの「[関連ドキュメント](#)」に記載されているマニュアルも参照してください。これらのマニュアルは、次の Web サイトからオンラインで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic>

まず、『ILOM 3.0 概念ガイド』を読んで、ILOM の特徴と機能を把握してください。ILOM によってサポートされる新しいシステムをセットアップするには、『ILOM 3.0 入門ガイド』を参照してください。このドキュメントの手順に従って、ネットワークへの接続、ILOM への初回ログイン、およびユーザーアカウントやディレクトリサービスの設定を行います。次に、ほかの ILOM タスクを実行するために使用する ILOM インタフェースを決定します。選択したインタフェースに対応する『ILOM 3.0 手順ガイド』を参照してください。

プラットフォーム固有の ILOM 更新については、ILOM 補足マニュアルまたは管理ガイドを参照してください。これらのドキュメントでは、サーバープラットフォーム固有の ILOM の機能とタスクについて説明されています。ILOM 補足マニュアルまたは管理ガイドは、サーバー付属のマニュアルセットに含まれています。

第2章

ILOM 3.0.3 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.3 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順に加えて、既知および解決済みの問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章のトピックは次のとおりです。

- [6 ページの「ILOM 3.0.3 の新機能」](#)
- [7 ページの「ILOM 3.0.3 の時点で解決済みの問題」](#)
- [10 ページの「ILOM 3.0.3 の時点で既知の問題」](#)

ILOM 3.0.3 の新機能

次の表には、ILOM 3.0.3 リリースで使用可能な新機能を示しています。各機能の説明が記載されている ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

項目	
説明	参照先
CMM シャーシ管理ビューとドキュメントの更新	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「Web インタフェースの概要」
CMM 電源管理メトリックの機能拡張	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」
プラットフォーム固有の消費電力履歴表示に関する機能拡張	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」
ILOM CLI または Web インタフェースを使用して BIOS の起動デバイス設定を上書きする機能の拡張	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「リモートホスト管理オプション」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「リモートホストの電源状態の管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「リモートホストの電源状態の管理」
障害が発生したコンポーネントの修理後にイベントログから障害をクリアする機能に関する情報の更新	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「システム監視と警告管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「システムコンポーネントの監視」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「システムコンポーネントの監視」
ジャンプリンクによる Web ページの機能拡張	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「Web インタフェースの概要」

項目	
説明	参照先
スナップショットユーティリティの新しいデータ収集オプション	<ul style="list-style-type: none"> 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「x64 および SPARC システムのリモートホスト診断」 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「リモートホストのシステム診断の実行」 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「リモートホストのシステム診断の実行」

ILOM 3.0.3 の時点で解決済みの問題

ここでは、ILOM 3.0.3 の時点で解決済みの問題について説明します。各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

項目	
説明	リンク
ILOM リモートコンソールに関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> 8 ページの「国際キーボードでの Alt Graph キーの機能」
ユーザー管理に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> 8 ページの「Web インタフェースでファイルをアップロードするときに「Browse」ボタンが表示されない」
SSH ホストキーに関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> 9 ページの「SSH キーを新しく生成したときに SSH サーバーの再起動が必要」 9 ページの「SSH ホストキーをロードするとエラーメッセージが表示される」
警告管理に関する既知の問題	<ul style="list-style-type: none"> 9 ページの「IP アドレスを使用する電子メールアドレスが警告管理ルールのクエリーで受け入れられる」
SPARC サーバーのシステムクロック設定に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> 10 ページの「CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによってはクロックが正しく再計算されない (SPARC サーバー)」

国際キーボードでの Alt Graph キーの機能

クライアントで実行されている ILOM リモートコンソールのバージョンによっては、国際キーボードの Alt Graph キーが誤動作します。

この問題は、2 段階で対処されました。

1. **回避方法:** ショートカットキーの組み合わせ (ALT-z) を追加し、これを使用して ILOM リモートコンソールで「右 Alt」キーが割り当てられているメニュー項目のオン/オフを切り替えます。この回避方法は、Java 開発キット (JDK) のバージョンにかかわらず使用できます。ただし、この回避方法には、ALT-GR キーを直接送信できないという制約があります。この回避方法を使用するには、実行する ILOM リモートコンソールのバージョンが、ショートカットキー (ALT-z) をサポートするものでなければなりません。
2. **根本的な解決方法:** この解決方法では、リモートコンソールの特別なメニューオプションや操作を使用せずに、ALT-GR キーを直接送信します。ただし、新しいバージョンの JDK を使用する必要があります。この根本的な解決方法を使用するには、実行する ILOM リモートコンソールのバージョンが、ALT-GR キーを直接送信するものでなければなりません。また、JDK に関する次の要件も満たしている必要があります。
 - Windows では、JDK 1.5 以上のバージョンを使用します。
 - Solaris および Linux では、JDK 1.6 Update 10 以上のバージョンを使用します。ILOM の version コマンドを使用すると、プラットフォーム上で実行されている ILOM のバージョンを判別できます。

注 - Linux バージョンおよび Solaris バージョンの ILOM 3.0.x では、回避方法と根本的な解決方法の両方が追加されています。Windows バージョンの ILOM 3.0.x では、「根本的な解決方法」に示した機能が追加されていますが、「回避方法」の内容は追加されていません。

Web インタフェースでファイルをアップロードするとき「Browse」ボタンが表示されない

CR 6787083

問題: 以前のバージョンの ILOM では、設定ページで SSL 証明書をアップデートするとき、次の条件に該当していると「Browse」オプションが表示されませんでした。

- 別の SSL 証明書とキーを HTTPS アクセス用にアップロードするとき
- 省略可能な証明書を LDAP/SSL 用に設定するとき
- 省略可能な証明書を Active Directory 用に設定するとき
- ユーザー SSH キーを設定するとき
- バックアップと復元の操作を設定するとき

SSL 証明書を取得するために「Upload」ボタンをクリックすると新しいウィンドウが表示されますが、ファイルを選択してアップロードすることができませんでした。

更新: この問題は ILOM 3.0.3 リリースで修正されました。SSL 証明書をアップロードするための「Browse」オプションが使用可能になりました。

SSH キーを新しく生成したときに SSH サーバーの再起動が必要

CR 6781487

問題: 新しい SSH キーを生成するときに、SSH サーバーを再起動しなければ新しいキーが有効になりません。新しい SSH キーをすぐに新しい接続に使用することができません。

更新: ILOM 3.0.3 からは、サーバーを再起動しなくても SSH キーをすぐに新しい接続に使用できるようになりました。

SSH ホストキーをロードするとエラーメッセージが表示される

CR 6776200

問題: 以前のバージョンの ILOM では、load コマンドを使用して SSH ホストキーをアップロードするときに、正常にアップロードされても「set: Command Failed」というエラーメッセージが表示されることがありました。このエラーメッセージは、ILOM 3.0.3 以降のバージョンでは表示されなくなりました。

更新: この問題は ILOM 3.0.3 リリースで修正されました。

IP アドレスを使用する電子メールアドレスが警告管理ルールのクエリーで受け入れられる

CR 6776214

問題: ILOM の警告管理機能を使用するときに、以前のバージョンの ILOM ではホスト名ベースの電子メールアドレスを使用する必要がありました。現在は、IP アドレスを使用して電子メール警告を送信できます。

更新: IP ベースの電子メールアドレスのチェックが ILOM 3.0.3 リリースで別途追加されました。本来の検証に失敗した場合は、IP アドレスが指定された電子メールがあるかどうかが続けてチェックされます。

CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによってはクロックが正しく再計算されない (SPARC サーバー)

CR 6798875

問題: CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによっては、クロックが正しく再計算されないか、クロックのタイムゾーン設定が更新されないことがあります。

更新: ILOM 3.0.3.20b の時点では、この問題は SPARC サーバーに対しては修正済みです。

クロックが正しく再計算されるようにするには、有効なグローバルタイムゾーン名を使用する必要があります。有効なグローバルタイムゾーン名の一覧は、インターネット (http://en.wikipedia.org/wiki/List_of_zoneinfo_time_zones など) で検索できます。

例:

- SP クロックのタイムゾーンプロパティ値を米国東部標準時に設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clock/ timezone=America/New_York
```

または

- SP クロックのタイムゾーンプロパティ値を米国中部標準時に設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clock/ timezone=America/Chicago
```

ILOM 3.0.3 の時点で既知の問題

ここでは、ILOM 3.0.3 の時点で既知となっている問題について説明します。次の表に、既知の問題の一覧と、その問題の説明が記載されているセクションへのリンクを示します。各問題固有の変更依頼 (CR) 番号と回避方法または更新が存在する場合は、あわせて示します。

項目	
説明	リンク
予期しない BIOS の動作	<ul style="list-style-type: none"> • 11 ページの「SP 再起動後、BIOS アップグレードがすぐに行われない」
デフォルトへのリセット時の予期しない動作	<ul style="list-style-type: none"> • 12 ページの「外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセットされない」
1 時間ごとのタイムスタンプの動作	<ul style="list-style-type: none"> • 12 ページの「1 時間ごとの平均電力のタイムスタンプに 1 時間未満の増加分が反映されない」
SSH キーがロードされない	<ul style="list-style-type: none"> • 13 ページの「バックアップ/復元後に SSH キーの復元に失敗する」

SP 再起動後、BIOS アップグレードがすぐに行われない

CR 6813514

問題: SP ファームウェアをアップグレードするときに、BIOS ファームウェアをすぐにアップグレードするか、BIOS アップグレードをあとで行うかを選択できます。BIOS をすぐにアップグレードすることを選択した場合は、SP ファームウェアがアップグレードされ、ホストの電源が強制的にオフになり、SP が再起動します。BIOS アップグレードをあとで行うことを選択した場合は、SP ファームウェアがアップグレードされて SP が再起動します。

どちらを選択しても、BIOS はすぐにはプログラムされません。代わりに、SP は新しい 3.0.x イメージで再起動し、ホストの電源がオフになるのを待ちます。BIOS をすぐに更新することを選択した場合は、ホストの電源がオフになり、ホスト BIOS をプログラムする処理が開始します。このプロセスは、完了するまでに 2 - 5 分かかります。

ただし、次の 2 つの問題が発生する可能性があります。

- **問題 1:** すぐに BIOS をアップグレードするオプションを選択した場合、ホスト BIOS をプログラムする処理の実行中に、BIOS のアップグレードがプログラムされていることが画面に表示されません。BIOS をプログラムする処理の実行中にホストの電源をオンにすると、BIOS にプログラムが誤記された状態になり、ホストは起動しません。解決するには、ホストの電源をオフにして、SP が BIOS をプログラムするのを 2 - 5 分間待機し、それからホストの電源をオンにしてください。
- **問題 2:** BIOS アップグレードをあとで行うオプションを選択して、ホストの電源をオフにしなかった場合は、BIOS はアップグレードされません。SP が BIOS をプログラムする処理を実行するには、ホストの電源をオフにする必要があります。単にホストを再起動した場合は、古い BIOS がそのまま残ります。BIOS と SP ファームウェアの不一致は、システムの誤動作の原因となります。

回避方法: SP ファームウェアをアップグレードしたら、できるだけ早くホストの電源をオフにし、少なくとも 5 分間待機したあとでシステムを再起動してください。

外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセットされない

CR 6676339

問題: `reset_to_defaults` コマンドを使用すると ILOM 設定をデフォルト値にリセットできます。ただし、外部シリアルポート設定は `reset_to_defaults` の実行時にリセットされません。

回避方法: CLI または Web インタフェースを使用して外部ポート設定を目的の値に設定してから ILOM を再起動してください。外部シリアルポート設定にアクセスするには、CLI で `/SP/serial/external` と入力するか、Web インタフェースで「Configuration」 --> 「Serial Port」を選択してください。

1 時間ごとの平均電力のタイムスタンプに 1 時間未満の増加分が反映されない

CR 6803961

問題: CLI を使用して CMM にログインしたときに、1 時間ごとの電力履歴の中にタイムスタンプが 1 時間進んだ時刻になっているものがあります。このエントリは、前回のタイムスタンプから現在までの平均電力を表しています。

回避方法: ありません。

平均電力のタイムスタンプは、直前の 1 分間または 1 時間の「移動平均」ではありません。代わりに、ILOM では開始時点の時刻（「タイム 0」と呼ぶ）が選択されます。60 秒後に、最初の 1 分間の平均が記録されます。次の 59 秒間は何も変化せず、タイム 120 の時点で 2 番目の 1 分間平均が記録されます。最後の 1 分間平均は直前の 1 分間の平均であり、センサーが読み取り可能であった時間の最後の 1 分間の平均ではありません。

1 時間平均の場合は、タイム 3600 の時点ではじめてサンプルが取得されて最初の 1 時間の平均が記録されます。2 番目の 1 時間平均が記録されるのは、タイム 7200 の時点です。

1 分間平均のうち最後の 60 個と、最後の 1 時間平均は、最後の 1 時間平均が保存されたその時点で比較するのではないがぎり、等しくありません。

1 時間平均の最小値と最大値のタイムスタンプは、1 分間平均のタイムスタンプよりもあとのものになることがあります。このようなことが発生するのは ILOM によってデータが記録されないときであり、この状態になるのは、センサーが読み取り可能ではなくなった（電源がオフになったか、値が下がりすぎて計測不可能になった）ときだけです。センサーが読み取り不可能である間は、ILOM によって「データなし」と記録されます。これは、履歴データの欠落を防ぐためです。

バックアップ/復元後に SSH キーの復元に失敗する

CR 6808138

問題: ILOM 設定をバックアップして復元するときに、 /SP/services/ssh/keys または /CMM/services/ssh/keys の下にある RSA および DSA 非公開鍵の復元に失敗します。

回避方法: SP 上に新しい鍵が生成されるときに、次のメッセージが表示されます。

```
Warning: the RSA host key for 'xxx.xxx.xxx.xxx' differs
from the key for the IP address 'xxx.xxx.xxx.xxx'
Offending key for IP in ~/.ssh/known_hosts:216
Matching host key in ~/.ssh/known_hosts:189
```

```
Are you sure you want to continue connecting (yes/no)?
```

yes と入力するか、known_hosts ファイルを編集します。

第3章

ILOM 3.0.4 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.4 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順に加えて、既知および解決済みの問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章のトピックは次のとおりです。

- [16 ページの「ILOM 3.0.4 の新機能」](#)
- [18 ページの「ILOM 3.0.4 の時点で解決済みの問題」](#)
- [24 ページの「ILOM 3.0.4 の時点で既知の問題」](#)

ILOM 3.0.4 の新機能

次の表には、ILOM 3.0.4 リリースで使用可能な新機能を示しています。各機能の説明が記載されている ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

項目	
説明	参照先
新しい電源管理レイアウトおよびしきい値制御	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」
CLI セッションのアイドル時間設定の更新	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ILOM へのログインと ILOM からのログアウト」
LDAP/SSL 認証属性の新しいターゲットの追加	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ユーザーアカウントの管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「ユーザーアカウントの管理」
SNMP MIB を ILOM からダウンロードする機能の追加	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「システム警告の管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「システム警告の管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』の「SNMP の概要」
ユーザーセッションに割り当てられたユーザーの役割を表示する機能の追加	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ユーザーアカウントの管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「ユーザーアカウントの管理」
Active Directory での拡張検索モードの機能拡張	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ユーザーアカウントの管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「ユーザーアカウントの管理」

項目	参照先
IPMI トラップ、電子メール警告、または SNMP トラップを設定するときのテスト警告の機能拡張	<ul style="list-style-type: none"> • 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「システム警告の管理」 • 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「システム警告の管理」
ILOM リモートコンソールのロック機能の追加	<ul style="list-style-type: none"> • 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ILOM のネットワーク設定」 • 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「Managing Remote Hosts Storage Redirection and Securing the ILOM Remote Console」 • 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「リモートホストのリダイレクトの管理および ILOM リモートコンソールのセキュリティ保護」
新しい ILOM SP ネットワークポート	<ul style="list-style-type: none"> • 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ILOM のネットワーク設定」
リモートホスト KVMS のマウスモード設定の更新	<ul style="list-style-type: none"> • 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「CLI コマンドリファレンス」 • 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「リモートホストのリダイレクトの管理および ILOM リモートコンソールのセキュリティ保護」

ILOM 3.0.4 の時点で解決済みの問題

ここでは、ILOM 3.0.4 リリースで解決済みとなっている問題について説明します。各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

項目

説明	リンク
ユーザー管理に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">• 19 ページの「デフォルトの役割が none に設定されているときに LDAP または RADIUS のコマンドが動作しない」• 19 ページの「dnslocatorquery レコードを Active Directory 設定から削除できない」
システムクロック設定に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">• 19 ページの「CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによってはクロックが正しく再計算されない (x86 サーバー)」
電源管理に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">• 21 ページの「電源管理プロパティに関するヘルプテキストが間違っている」
スナップショット SP データに関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">• 20 ページの「スナップショットユーティリティー実行時にデバッグ用のログファイルが欠落する」
ILOM バックアップ CLI 機能に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">• 20 ページの「ILOM CLI で set /{target}/config dump_uri を実行するときに確認メッセージが表示されない」
CLI のヘルプテキスト機能に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">• 21 ページの「/sys の読み取り専用プロパティの役割に関するヘルプテキストが間違っている」• 22 ページの「<TARGET> <property> <property> のヘルプ出力の内容がわかりにくい」• 23 ページの「ヘルプテキストの値が不正確: /SP/users/root/ssh/key/1-5」
CLI でのシリアルポート設定に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">• 23 ページの「ILOM 外部シリアルポートのフロー制御が正しく実装されていない」
CLI 読み取り専用プロパティに関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">• 23 ページの「読み取り専用プロパティの CLI 自動補完機能が Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーでは動作しない」

デフォルトの役割が none に設定されているときに LDAP または RADIUS のコマンドが動作しない

CR 6804986

問題: LDAP または RADIUS のデフォルトの役割が none に設定されているときは、本来割り当てられるはずの Read Only (o) の役割が自動的に割り当てられません。

更新: この問題は ILOM 3.0.4 リリースで修正されました。現在では、LDAP または RADIUS のデフォルトの役割が none に設定されている状態で LDAP または RADIUS ユーザーとしてログインすると、Read Only (o) の役割が割り当てられます。

dnslocatorquery レコードを Active Directory 設定から削除できない

CR 6797346

問題: Active Directory を設定するときに dnslocatorquery レコードを削除できません。

更新: この問題は ILOM 3.0.4 リリースで修正されました。dnslocatorquery レコードの内容と範囲の規則が緩和され、エントリのクリアや削除ができるようになりました。この結果、エントリを完全に削除するための空の文字列値を入力できるようになりました。

CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによってはクロックが正しく再計算されない (x86 サーバー)

CR 6798875

問題: CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによっては、クロックが正しく再計算されないか、クロックのタイムゾーン設定が更新されないことがあります。

更新: ILOM 3.0.4 の時点では、この問題は x86 サーバーに対しては修正済みです。

クロックが正しく再計算されるようにするには、有効なグローバルタイムゾーン名を使用する必要があります。有効なグローバルタイムゾーン名の一覧は、インターネット (http://en.wikipedia.org/wiki/List_of_zoneinfo_time_zones など) で検索できます。

例:

- SP クロックのタイムゾーンプロパティ値を米国東部標準時に設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clock/ timezone=America/New_York
```

または

- SP クロックのタイムゾーンプロパティ値を米国中部標準時に設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clock/ timezone=America/Chicago
```

スナップショットユーティリティー実行時にデバッグ用のログファイルが欠落する

CR 6811375

問題: スナップショットユーティリティーを使用して Service 要員用のデータを収集するときに、/var/log のファイルが欠落していることが原因で、デバッグプロセスが正常に実行できません。

更新: 欠落していたスナップショットユーティリティーの /var/log ファイルは、ILOM 3.0.4 リリースで復元されました。

ILOM CLI で set /{target}/config dump_uri を実行するときに確認メッセージが表示されない

CR 6804202

問題: /{target}/config に対する dump_uri を ILOM CLI で設定するときに、コマンドが正常に実行されたかどうかを示す確認メッセージが表示されません。

更新: set /{target}/config dump_uri の確認メッセージの出力は、ILOM 3.0.4 リリースで修正されました。

/SYS の読み取り専用プロパティの役割に関するヘルプテキストが間違っている

CR 6764923、CR 6770180

問題: /SYS の読み取り専用プロパティに関して表示される ILOM CLI ヘルプのユーザーの役割情報は、誤解を招くおそれがあります。例:

```
-> help /SYS fru_part_number
```

```
Properties:
```

```
fru_part_number : FRU part number
```

```
fru_part_number : User role required for set = r
```

ヘルプテキストに表示される、読み取り専用プロパティのユーザーの役割情報は誤解を招くおそれがあります。読み取り専用プロパティは、ユーザーの役割にかかわらず設定することはできません。

更新: ILOM 3.0.4 で ILOM ヘルプ機能が更新され、/SYS の読み取り専用プロパティの説明には必須のユーザーの役割の値が表示されないようになりました。

電源管理プロパティに関するヘルプテキストが間違っている

CR 6770180

問題: 次のプロパティは読み取り専用であり、設定は不可能です。したがって、これらのプロパティを表示するために必要な役割は Read Only (o) です。

```
-> help /SP/powermmgmt
```

```
Properties:
```

```
actual_power : Actual power consumed by the system
```

```
actual_power : User role required for set = o
```

```
permitted_power : Total power permitted for the system
```

```
permitted_power : User role required for set = o
```

```
available_power : Available power for the system
```

```
available_power : User role required for set = o
```

更新: この問題は ILOM 3.0.4 リリースで修正されました。これらのプロパティのヘルプテキストには、プロパティを表示するのに必要な役割が Read Only (o) であることが表示されるようになりました。

<TARGET> <property> <property> のヘルプ出力の内容がわかりにくい

CR 6770069

問題: ヘルプ機能を使用して複数のプロパティの値を表示するときに、わかりにくいテキストが表示されます。次に例を示します。

ヘルプの出力が次のように表示されます。

```
-> help /HOST send_break_action boottimeout status
Properties:
  send_break_action : Send Break Action to Host
  send_break_action : Possible values = break, dumpcore
  send_break_action : User role required for set = c
  boottimeout       : Boot time out
  send_break_action : Possible values = break, dumpcore
  boottimeout       : User role required for set = r
  status            : Host Status
  send_break_action : Possible values = break, dumpcore
  boottimeout       : User role required for set = r
```

本来は、次のように出力されるべきです。

```
-> help /HOST send_break_action boottimeout status
Properties:
  send_break_action : Send Break Action to Host
  send_break_action : Possible values = break, dumpcore
  send_break_action : User role required for set = c
  boottimeout       : Boot time out
  boottimeout       : User role required for set = r
  status            : Host Status
```

更新: ヘルプ機能が ILOM 3.0.4 リリースで更新され、該当しないプロパティ値は表示されないようになりました。

ヘルプテキストの値が不正確:

/SP/users/root/ssh/key/1-5

CR 6783032

問題: /SP/users/root/ssh/key/ の下の複数のプロパティのヘルプテキストに不正確な記述があります。

更新: /SP/users/root/ssh/key のヘルプ機能は、ILOM 3.0.4 リリースで修正されました。

ILOM 外部シリアルポートのフロー制御が正しく実装されていない

CR 6822067

問題: ILOM の外部シリアルポートのフロー制御に対する書き込み可能のサポート (set コマンドを使用) が有効になるのは、Oracle の AST2000 サーバーベースのプラットフォーム上のみです。

更新: ILOM 3.0.4 の時点では、ILOM の外部シリアルポートのフロー制御に対する書き込み可能のサポートは、Oracle のすべてのプラットフォーム上で有効です。

読み取り専用プロパティの CLI 自動補完機能が Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーでは動作しない

CR 6729108

問題: CLI で show コマンドを実行するときに、読み取り専用プロパティが認識されません。

更新: show コマンドの実行時に読み取り専用プロパティを認識するためのサポートが ILOM 3.0.4 リリースで追加されました。

ILOM 3.0.4 の時点で既知の問題

ここでは、ILOM 3.0.4 の時点で既知の問題と回避方法について説明します。各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

項目	
説明	リンク
ILOM リモートコンソールに関する既知の問題	<ul style="list-style-type: none">• 24 ページの「Windows クライアントで CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトするときに ILOM リモートコンソールがハングすることがある」• 25 ページの「ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない」

Windows クライアントで CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトするときに ILOM リモートコンソールがハングすることがある

CR 6806444

問題: Windows クライアントを使用して CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージを ILOM リモートコンソールからリダイレクトするときに、ILOM リモートコンソールが応答しなくなることがあります。

影響を受けるソフトウェア:

- ILOM 2.0 以降および ILOM 3.0 以降
- ILOM リモートコンソール
- JDK 1.6
- クライアントシステムにインストールされている Windows オペレーティングシステム

対処方法:

- Windows クライアントで「ILOM リモートコンソール (ILOM Remote Console)」ウィンドウを閉じ、次の対処方法のいずれかを実行します。
 - Linux または Solaris クライアントを使用して ILOM リモートコンソールを起動し、CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトする。

または

- Windows、Solaris、または Linux のクライアントを使用し、ILOM 3.0 の Storage Redirection ユーティリティを起動して CD-ROM イメージまたはフロッピー イメージをリダイレクトする。

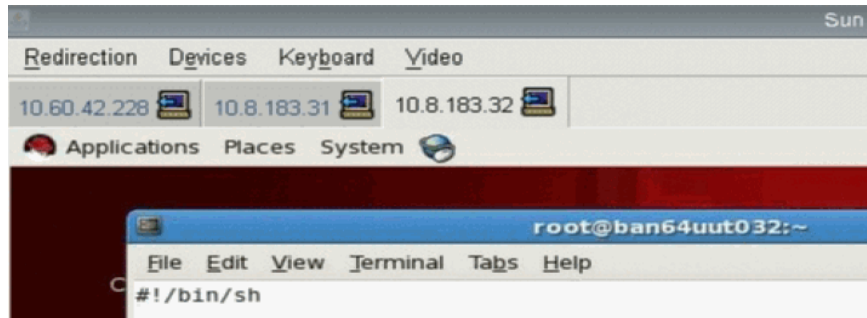
注 – Storage Redirection は、ILOM 3.0 のみに含まれているコマンド行ユーティリティです。Storage Redirection ユーティリティの使用方法については、Oracle ILOM 3.0 のマニュアルセットを参照してください。

ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない

CR 6867870

問題: 次の条件のときに、ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない場合があります。

- ILOM リモートコンソールクライアントで複数のタブを開き、3 つの異なるホストへの接続が表示されているときに、ILOM リモートコンソールクライアントの状態が休眠モードになる (またはネットワークケーブルが取り外される)。



- 第 2 および第 3 の ILOM リモートコンソールクライアントから、同じ 3 つのホストへの接続が確立された状態で、これらのリモートコンソールクライアントも休眠モードになる (またはネットワークケーブルが取り外される)。

ILOM リモートコンソールクライアントの 1 つ (またはそれ以上) が休眠モードから復帰する (またはネットワークケーブルが再接続される) が、非アクティブのセッションを再開することができず、次の状態になる。

- システムダイアログに「Connection with SP is down, try redirection later.」と表示されます。「OK」をクリックすると、ダイアログが閉じます。
- もう一度ダイアログが表示され、「The maximum number of connections have been reached.」と表示されます。「OK」をクリックすると、ダイアログが閉じます。

回避方法: 最初の 2 つのホストに対するアクティブでない ILOM リモートコンソールセッションを回復するには、両方のシステム上で SP をリセットする (reset /SP) 必要があります。3 番目のホストでは、アクティブでない ILOM リモートコンソールセッションは通常、最初の 2 つのホストの SP がリセットされてから 5 分以内に回復します。ただし、3 番目の ILOM リモートコンソールクライアントが休止モードまたはスクリーンセーバーモードのときは、3 番目のホストに対するアクティブでないリモートコンソールセッションが回復しないことがあります。この状態になったときは、アクティブでない ILOM リモートコンソールセッションを回復するには 3 番目のホストの SP をリセットする必要があります。ILOM リモートコンソールがサポートするユーザーセッション接続の数は、1 つのホストシステムに対して 3 つまでです。

第4章

ILOM 3.0.6 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.6 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順に加えて、既知および解決済みの問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章のトピックは次のとおりです。

- [28 ページの「ILOM 3.0.6 の新機能」](#)
- [28 ページの「ILOM 3.0.6 の時点で解決済みの問題」](#)
- [30 ページの「ILOM 3.0.6 の時点で既知の問題」](#)

ILOM 3.0.6 の新機能

次の表に、ILOM 3.0.6 リリースで追加された新機能と、各機能の説明が記載されている ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

項目	
説明	参照先
HDD および RAID の構成のための新しいストレージ監視プロパティ	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ストレージ監視およびゾーン管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ストレージコンポーネントおよび Zone Manager の監視」
電源管理に関する機能拡張	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」
新しい root パスワード警告メッセージ	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ILOM 概要」
ILOM で使用されるネットワークポートの一覧の更新	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ILOM のネットワーク設定」

ILOM 3.0.6 の時点で解決済みの問題

ここでは、ILOM 3.0.6 の時点で解決済みの問題について説明します。解決済みの各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号が存在する場合は、あわせて示します。

項目	
説明	リンク
SMTP テスト電子メール通知の予期しない動作	<ul style="list-style-type: none"> • 29 ページの「SMTP テスト警告電子メール通知を送信できない」
CMM からブレードへのドリルダウン動作の予期しない動作	<ul style="list-style-type: none"> • 29 ページの「SSH の無効化後に CMM からサーバーモジュールにナビゲートできない」
電源管理イベントの予期しない動作	<ul style="list-style-type: none"> • 29 ページの「電源管理イベントがログファイルに記録されない」

SMTP テスト警告電子メール通知を送信できない

CR 6850298

問題: SMTP ページでの警告生成テスト後に、テスト電子メール通知が送信されず、このイベントに対応するエントリがイベントログに出力されていません。

更新: この問題は、ILOM 3.0.6 の時点で解決済みです。

SSH の無効化後に CMM からサーバーモジュールにナビゲートできない

CR 6837359

問題: サーバーモジュール上で SSH を無効にしたあとで、そのサーバーモジュールに CMM からナビゲートすることができません。

更新: この問題は、ILOM 3.0.6 の時点で解決済みです。

電源管理イベントがログファイルに記録されない

CR 6831492

問題: 電源管理のしきい値を超えてもイベントがトリガーされません。

更新: この問題は、ILOM 3.0.6 の時点で解決済みです。

ILOM 3.0.6 の時点で既知の問題

ここでは、ILOM 3.0.6 の時点で既知となっている問題と回避方法について説明します。各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

項目

説明	リンク
ILOM Web インタフェースに関する既知の問題	<ul style="list-style-type: none">30 ページの「ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない」31 ページの「設定作業後のアクセスページエラーシステムを IPMItool から監視するときに不明なセンサー LED ステータスが表示される」
IPMI インタフェースに関する既知の問題	<ul style="list-style-type: none">31 ページの「設定作業後のアクセスページエラーシステムを IPMItool から監視するときに不明なセンサー LED ステータスが表示される」
バックアップと復元に関する既知の問題	<ul style="list-style-type: none">31 ページの「バックアップと復元の実行後にコンソールエラーが表示される」

ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない

CR 6858008

問題: SP ファームウェアを ILOM 2.0 から 3.0 に更新すると、アップグレード完了後は ILOM Web インタフェースでリモートホストの電源状態を取得できなくなることがあります。この問題が発生した場合は、「Remote Power Control」タブに空白のページが表示されます。

回避方法: 次のいずれかを実行します。

- アップグレードの完了後に、ブラウザのキャッシュをクリアし、ブラウザの表示を最新の情報に更新します。

または

- ILOM Web ページのヘッダー領域にある「Refresh」ボタン (ILOM Web インタフェースのページ上) をクリックしてブラウザキャッシュの問題を修正します。

設定作業後のアクセスページエラーシステムを IPMItool から監視するとき不明なセンサー LED ステータスが表示される

CR 6848980

問題: IPMItool を使用して Oracle サーバーを監視しているときに、不明なセンサー LED ステータスが ILOM Web インタフェースに表示されます。この問題が発生する可能性があるのは、SP と IPMI KCS インタフェースが同時にオペレーティングシステム (OS) から実行されているときです。このような設定の結果として、IPMI メッセージが SP にオーバーロードされます。

回避方法: ILOM Web インタフェースによる IPMI センサー読み取りに十分な時間を与えるために、ホスト OS への KCS メッセージ応答の頻度を制限します。それには、コマンド `sleep 1` をホスト IPMItool スクリプト内のコマンドの間に挿入します。

バックアップと復元の実行後にコンソールエラーが表示される

CR 6847309

問題: ILOM 設定のバックアップと復元の実行後に、次のコンソールエラーメッセージが表示されることがあります。

```
bind (udp): Address already in use
```

回避方法: ありません。このエラーメッセージは無視できます。

ILOM Power Management で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 によってシステムイベントログに警告メッセージが生成される

CR 6881284

問題: ILOM Power Management 機能によって電力が制限されているときに、プロセッサが制限されていることをユーザーに知らせる警告メッセージが Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムのシステムイベントログに出力されます。イベントの例を次に示します。

```
The Speed of Processor xx in group x is being limited by system firmware. The processor has been in this reduced performance state for xxxx seconds since last report.
```

回避方法: 何も必要ありません。これらは予期されるイベントであり、問題を示すものではありません。

第5章

ILOM 3.0.8 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.8 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順に加えて、既知および解決済みの問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章のトピックは次のとおりです。

- [34 ページの「ILOM 3.0.8 の新機能」](#)
- [35 ページの「ILOM 3.0.8 の時点で解決済みの問題」](#)
- [36 ページの「ILOM 3.0.8 の時点で既知の問題」](#)

ILOM 3.0.8 の新機能

次の表に、ILOM 3.0.8 リリースで追加された新機能を記載します。各機能の説明が記載されている ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

項目	
説明	参照先
Web インタフェースページの機能拡張 (システム概要情報と電源投入設定の表示と管理を 1 つのページで実行可能)	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「Web インタフェースの概要」
SP の新しい電源管理用語と Web レイアウト	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」
新しい IPMI 電力上限 (Power Limit) 機能と、次の操作に対応する新しい IPMI 手順 <ul style="list-style-type: none">Power Limit 割当量有効化状態の設定Power Limit 割当量ワット数の取得Power Limit 割当量ワット数の設定	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』の「IPMI の概要」
SNMP 実装に対する新しい電力上限 (Power Limit) 詳細については、電源管理データオブジェクトの Hardware Control MIB を参照	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』の「IPMI の概要」
システムバナーメッセージに関する ILOM 新機能の追加	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ILOM の概要」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ILOM へのログインと ILOM からのログアウト」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「ILOM へのログインと ILOM からのログアウト」
ILOM Web インタフェースでのストレージ監視サポートの追加	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「ストレージコンポーネントおよび Zone Manager の監視」

項目	
説明	参照先
ILOM で WS-Management と CIM を標準管理インタフェースとしてサポートする新機能の追加	<ul style="list-style-type: none"> 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ILOM の概要」 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』の「WS-Management と CIM を使用したサーバー管理」
ILOM での Oracle x86 サーバーの SP 履歴ログ機能の追加 注 - このコンテンツは、Oracle SPARC サーバーにも適用されます。	<ul style="list-style-type: none"> 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「システムコンポーネントの監視」
SPARC サーバーに対する新しい TPM 管理	<ul style="list-style-type: none"> 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「SPARC サーバーでの TPM と LDom の状態の管理」 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「SPARC サーバーでの TPM と LDom の状態の管理」

ILOM 3.0.8 の時点で解決済みの問題

ここでは、ILOM 3.0.8 リリースで解決済みとなっている問題について説明します。各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

項目	
説明	リンク
CLI でのタイムゾーン設定の問題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 36 ページの「ILOM CLI での無効なタイムゾーン設定」
スナップショットのプロパティが SP のリセット後に保持されない	<ul style="list-style-type: none"> 36 ページの「スナップショットのプロパティがリセット後に保持されない」

ILOM CLI での無効なタイムゾーン設定

CR 6871128

問題: 不完全なタイムゾーン名も、ILOM CLI ターゲット SP/clock/timezone として受け入れられていました。タイムゾーン名が不完全な場合、グリニッジ標準時 (GMT) がシステムによって使用される可能性があります。

更新: この問題は ILOM 3.0.8 リリースで修正されました。ILOM CLI によって受け入れられて検証されるのは、完全なタイムゾーン名のみです。

スナップショットのプロパティがリセット後に保持されない

問題: CLI を使用してスナップショットのプロパティ値を変更してから SP をリセットすると、スナップショットのプロパティ値がデフォルト値に戻ってしまいます。

更新: ILOM のスナップショット機能の動作は、設計どおりです。スナップショットのプロパティは、SP のリセット後は保持されません。

ILOM 3.0.8 の時点で既知の問題

ここでは、ILOM 3.0.8 の時点で既知となっている問題と回避方法について説明します。各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

項目

説明	リンク
Storage Redirection が 64 ビット JRE ではサポートされない	<ul style="list-style-type: none">37 ページの「Storage Redirection が 64 ビット JRE ではサポートされない」
アップグレード実行後にストレージ監視デバイスの情報が表示されるまでに時間がかかる	<ul style="list-style-type: none">37 ページの「ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生する」
Oracle Hardware Installation Assistant と帯域内管理インタフェースを使用して ILOM をアップグレードするときに ILOM のバージョンが表示されない	<ul style="list-style-type: none">38 ページの「HIA を使用して ILOM を帯域内管理インタフェースからアップグレードするときに ILOM のバージョンが表示されない」

Storage Redirection が 64 ビット JRE ではサポートされない

CR 6800702 および CR 6805732

問題: 64 ビットの Java Runtime Environment (JRE) を使用していると、Storage Redirection の起動に失敗することがあります。64 ビットシステムでは 64 ビット JRE がデフォルトであるため、32 ビットの JRE もインストールしておく必要があります。64 ビット JRE を使用して Storage Redirection を起動しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
"Unsupported platform"
```

回避方法: 32 ビット JRE を 64 ビットシステムにインストールします。JRE は、<http://java.com/jp/download/index.jsp> からダウンロードできます。

ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生する

CR 6870530

問題: ILOM CLI または Web インタフェースで、ストレージ監視情報が表示されるまでに、または最新の状態に更新されるまでに、最大 5 分間の遅延が発生することがあります。この遅延が発生するのは一般的に、次の作業のあとです。

- ILOM 3.0.6 以降にアップグレードし、必須の System Management Pack をインストールした。

または

- RAID またはディスクの情報が更新されたあとでシステムに対するクエリーを実行した。

注 – ストレージ監視機能は、すべての Oracle サーバーで使用できるわけではありません。使用しているサーバーでこの機能がサポートされるかどうかを判断するには、サーバーに対応する ILOM の補足マニュアルまたは管理マニュアルを参照してください。

注 – ストレージ監視機能がサポートされるサーバーの場合は、ストレージ監視機能を使用する前に System Management Pack をインストールしておく必要があります。サーバーに必要な System Management Pack に関する情報については、サーバーに対応する ILOM の補足マニュアルまたは管理マニュアルを参照してください。

回避方法: 回避方法はありません。この 5 分間の遅延が発生するのは、必須の System Management Pack のインストール後やシステムに対する RAID またはディスクの更新後に限られます。

HIA を使用して ILOM を帯域内管理インタフェースからアップグレードするときに ILOM のバージョンが表示されない

CR 6867109

問題: ILOM を Oracle Hardware Installation Assistant (HIA) から帯域内インタフェースを使用してアップグレードするときに、Oracle サーバーによっては、実行中の ILOM のバージョンが HIA の画面に表示されないことがあります。

回避方法: ILOM Web インタフェースを使用して、実行中の ILOM のバージョンを特定します。

第6章

ILOM 3.0.9 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.9 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順に加えて、既知および解決済みの問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章のトピックは次のとおりです。

- [40 ページの「ILOM 3.0.9 の新機能」](#)
- [40 ページの「ILOM 3.0.9 の時点で解決済みの問題」](#)
- [42 ページの「ILOM 3.0.9 の時点で既知の問題」](#)

ILOM 3.0.9 の新機能

次の表に、ILOM 3.0.9 リリースで追加された新機能を記載します。各機能の説明が記載されている ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

項目	
説明	参照先
モジュラーシャーシシステムのコンポーネントファームウェア更新機能の追加	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) CMM 管理ガイド - Sun Blade 6000/Sun Blade 6048 モジュラーシステム』の「ファームウェア更新手順」
Sun Fire X4800 システムのコンポーネントファームウェア管理機能の追加	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ILOM ファームウェアの更新」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「ILOM ファームウェアの更新」
ILOM リモートコンソールでの新しい国際キーボードサポート	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「リモートホスト管理オプション」
ILOM CLI および Web インタフェースでの新しいシステムアップタイム表示	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「CLI コマンドリファレンス」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「Web インタフェースの概要」
Microsoft Windows 7 クライアントおよび Internet Explorer 8 クライアントのサポート	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「リモートホストのリダイレクトの管理および ILOM リモートコンソールのセキュリティ保護」

ILOM 3.0.9 の時点で解決済みの問題

ここでは、ILOM 3.0.9 リリースで解決済みとなっている問題について説明します。各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

項目	
説明	リンク
リモートコンソールに関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">41 ページの「ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない」

ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない

CR 6867870

問題: ILOM 3.0.6 より前のバージョンでは、ホストへのアクティブでない ILOM リモートコンソールセッションを回復しようとする問題が発生し、回避方法としてホストサーバー SP の再起動が必要でした。この問題に関する詳しい説明と回避方法は、[25 ページの「ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない」](#) (第 3 章の「既知の問題」のセクション) を参照してください

更新: 出荷時の (またはサポートする) ILOM ファームウェアリリースが次のいずれかの Oracle サーバースystem では、SP を再起動しなくてもアクティブでないリモートコンソールセッションを回復可能にするための修正が組み込み済みです。

- ILOM 3.0.6
- ILOM 3.0.8
- ILOM 3.0.9

サーバーに ILOM 3.0.6 以降がインストールされている場合は、ILOM リモートコンソールのアクティブでないセッションを解放および回復するのに最大 5 分間かかることがあります。ただし、ホストサーバーの電源がオフの場合は、ILOM リモートコンソールセッションの回復に要する時間は約 15 分間となります。ILOM リモートコンソールセッションの回復に要する時間は、その時点のビデオトラフィックの量によって異なります。次の表は、ILOM リモートコンソールのセッションの解放と回復に要する時間のガイドラインをまとめたものです。

ビデオ画面トラフィック	リモートコンソールセッションの推定回復時間	コンポーネントまたはホストのシナリオ
極度に多い (ホストシステムと SP の間のビデオトラフィックが 30K バイト/秒以上)	約 10 秒	リモートコンソールの xterm ウィンドウで「ls -R /」を実行している
多い (ホストシステムと SP の間のビデオトラフィックが 1K バイト/秒)	約 3 分	リモートコンソールの表示が絶えず変化している。例: マウスカーソルが点滅中
標準 (ホストシステムと SP の間のビデオトラフィックが 500 バイト/秒)	約 5 分	リモートコンソールの表示が変化しない。たとえば、キーボードやマウスの操作がなく、リアルタイムのグラフィカル表示がない。
少ない (ホストシステムと SP の間のビデオトラフィックが 100 バイト/秒)	約 11 分	リモートコンソールの画面全体が黒または空白である。

ビデオ画面トラフィック	リモートコンソールセッションの推定回復時間	コンポーネントまたはホストのシナリオ
非常に少ない (ホストシステムと SP の間のビデオトラフィックが 7 バイト/秒)	約 15 分	ホストの電源がオフになっている。
なし (ホストシステムと SP の間のビデオトラフィックが 0 バイト)	約 6 分	リモートコンソールセッションが一時停止モードになっている (アクティブでないタブ)。

ILOM 3.0.9 の時点で既知の問題

ここでは、ILOM 3.0.9 の時点で既知となっている問題と回避方法について説明します。各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

項目	説明	リンク
ILOM の FRU データフィールドの表示が空白になる	ヘルプコマンドの構文が無効の場合に、役に立たない出力が表示される	<ul style="list-style-type: none"> 42 ページの「SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる」
Web ブラウザのセキュリティー設定が有効になっているとスナップショットユーティリティーで SP のデータを収集できない		<ul style="list-style-type: none"> 43 ページの「無効なヘルプコマンド (help /sp system_contact=test) を実行すると役に立たない出力が表示される」 43 ページの「IE Web ブラウザのセキュリティーオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティーで SP のデータを収集できない」

SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる

CR 6913593、6850456、および 6916007

問題: プラットフォームサーバーによっては、ILOM SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でアップグレードまたはダウングレードするときに「Delay BIOS Update」オプションを有効にしていると、ILOM の DIMM FRU データフィールドの表示が空白になることがあります。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. ILOM 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードを行う前に、ホストの電源を切ります。
2. ILOM ファームウェアのダウングレードまたはアップグレードを行うときに、ファームウェアのオプション「Delay BIOS Update」が有効になっていないことを確認します。

無効なヘルプコマンド (help /SP system_contact=test) を実行すると役に立たない出力が表示される

CR 6884556 および 6923383

問題: 無効な help コマンド、たとえば help /SP system_contact=test を実行すると、役に立たない出力が表示されます。

回避方法: help /SP system_contact の正しい構文を使用します。

IE Web ブラウザのセキュリティーオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティーで SP のデータを収集できない

CR 6877868

問題: Internet Explorer (IE) Web ブラウザのセキュリティーオプションのうち、「暗号化されたページをディスクに保存する」が有効になっている場合は、サービススナップショットユーティリティーを使用して SP データを収集しようとしたときに次のエラーメッセージが表示されます。

Internet Explorer では、mdccvm02i - spanshot.cgi?dataset=ioh をダウンロードできません。このインターネットのサイトを開くことができませんでした。要求されたサイトが使用できないか、見つけることができません。後でやり直してください。

回避方法: サービススナップショットユーティリティーを使用して SP データを収集する前に、Internet Explorer Web ブラウザのセキュリティーオプション「暗号化されたページをディスクに保存しない」(「ツール」 --> 「インターネットオプション」 --> 「詳細設定」 タブ) を無効にしてください。

第7章

ILOM 3.0.10 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.10 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順に加えて、既知および解決済みの問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章のトピックは次のとおりです。

- [46 ページの「ILOM 3.0.10 の新機能」](#)
- [47 ページの「ILOM 3.0.10 の時点で解決済みの問題」](#)
- [48 ページの「ILOM 3.0.10 の時点で既知の問題」](#)

ILOM 3.0.10 の新機能

次の表に、ILOM 3.0.10 リリースで追加された新機能を記載します。各機能の説明が記載されている ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

項目	
説明	参照先
電源管理 CMM の用語、Web レイアウト、および CLI プロパティの更新	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「電源監視およびハードウェアインタフェースの管理」
シャーシコンポーネントファームウェアを集中管理するための新しいインタフェース	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ILOM 設定管理タスク」および「ファームウェアの更新操作」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ILOM ファームウェアの更新」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「ILOM ファームウェアの更新」
新しい SAS-2 ゾーニング管理機能を ILOM CMM 3.0.10 から使用可能	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ストレージ監視およびゾーン管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ストレージコンポーネントおよび Zone Manager の監視」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「ストレージコンポーネントおよび Zone Manager の監視」
CMM またはブレードに固有の CMM CLI プロンプトを作成可能	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「CLI の概要」

ILOM 3.0.10 の時点で解決済みの問題

ここでは、ILOM 3.0.10 リリースで解決済みとなっている問題について説明します。各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

項目

説明	リンク
無効な CLI help コマンド構文に対する表示出力の修正	<ul style="list-style-type: none">• 47 ページの「無効なヘルプコマンド (help /SP system_contact=test) を実行すると役に立たない出力が表示される」
IPMItool sunoem CLI に対して force オプションを使用可能	<ul style="list-style-type: none">• 48 ページの「IPMItool sunoem CLI はすべてのセッションスロットがビジーのときに拒否されることがある」

無効なヘルプコマンド (help /SP system_contact=test) を実行すると役に立たない出力が表示される

CR 6884556

問題: 無効な CLI help コマンド、たとえば help /SP system_contact=test を実行すると、役に立たない出力が表示されます。

更新: CLI help 機能は ILOM 3.0.10 で更新されました。CLI で help コマンドに対して無効な構文を入力すると、次のメッセージと使い方の情報が表示されます。

```
help: Invalid command syntax
Usage: help [-o|-output terse|verbose]
[<command>|legal|targets|<target>|<target> <property>]
```

IPMItool sunoem CLI はすべてのセッションスロットがビジーのときに拒否されることがある

CR 6884556

問題: IPMItool sunoem CLI が、すべてのセッションスロットがビジーのようであるという理由で拒否されることがあります。

更新: IPMItool sunoem CLI は ILOM 3.0.10 で修正され、force コマンドが追加されました。このコマンドを使用すると、その時点で実行中の IPMI sunoem CLI セッションが閉じられて、新しいセッションを起動できるようになります。force コマンドを起動するには、force という単語を引数として指定して CLI を起動します。例:

```
ipmitool -I open sunoem cli force version
```

ILOM 3.0.10 の時点で既知の問題

ここでは、ILOM 3.0.10 の時点で既知となっている問題と回避方法について説明します。各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

項目

説明	リンク
DVD コンテンツを Solaris クライアントリダイレクトから見るができない	<ul style="list-style-type: none">49 ページの「Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトに失敗し、手動マウントが必要になる」
64 ビット JDK の使用時は ILOM CLI Storage Redirection の起動に失敗する	<ul style="list-style-type: none">49 ページの「Storage Redirection CLI サービスを正常に起動するには 32 ビット JDK が必要」
64 ビット JDK の使用時は ILOM リモートコンソールの起動に失敗する	<ul style="list-style-type: none">51 ページの「ILOM リモートコンソールを正常に起動するには 32 ビット JDK が必要」
Internet Explorer 6 で ILOM 3.0 Web インタフェースを起動できない	<ul style="list-style-type: none">53 ページの「Internet Explorer 6 を使用しているときに ILOM Web インタフェースから SP に接続できない」

Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトに失敗し、手動マウントが必要になる

CR 6876387

問題: DVD (物理ドライブまたはイメージファイル) を Oracle Solaris から Red Hat Enterprise Linux (RHEL) にリダイレクトするときに、フロッピーと CD-ROM のアイコンは RHEL に表示されますが、CD-ROM アイコンをクリックしても DVD のコンテンツを見ることができません。

更新: DVD のコンテンツを見るには、DVD デバイスを手動でマウントする必要があります。DVD デバイスを手動でマウントするには、次の手順を実行します。

1. `lsscsi` コマンドを使用して DVD のデバイス名を調べます。

たとえば、`lsscsi` の出力は次のようになります。

```
[5:0:0:0] cd/dvd AMI Virtual CDROM 1.00 /dev/scd1
```

この例のデバイス名: `/dev/scd1`

2. マウントポイントとなる新しいディレクトリを作成します。既存のディレクトリを使用することもできます。

例:

```
/mnt
```

3. DVD デバイスをマウントします。

例:

```
# mount /dev/scd1 /mnt
```

```
mount: block device /dev/scd1 is write-protected, mounting read-only
```

DVD の内容は `/mnt` の下に表示されます。

Storage Redirection CLI サービスを正常に起動するには 32 ビット JDK が必要

CR 6938720

問題: ILOM の Storage Redirection CLI 機能のサービスを起動するときに、64 ビットの JDK ファイルが指定されているとサービスの起動に失敗します。

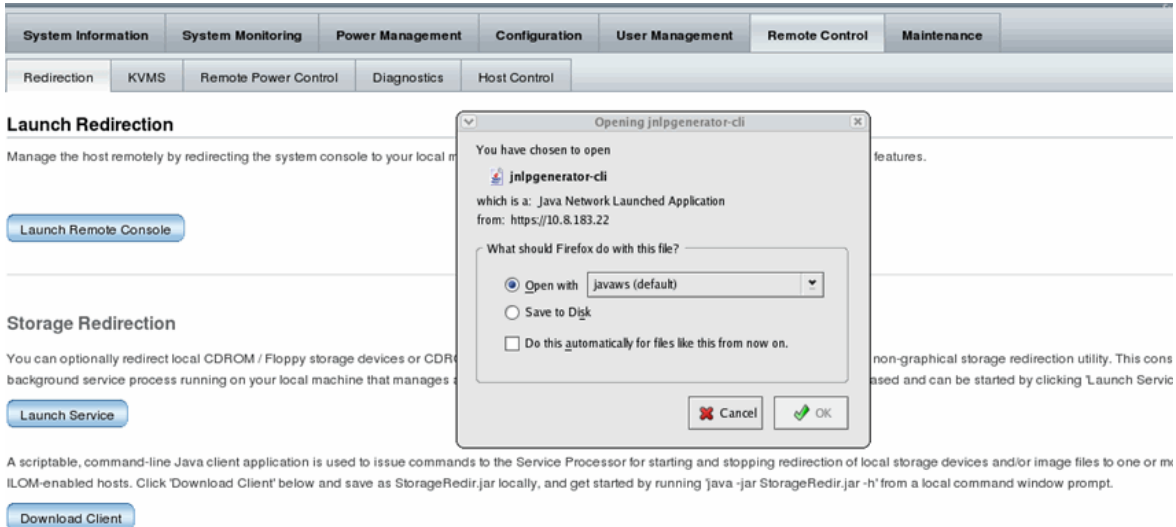
回避方法: 32 ビットの JDK ファイルを指定して Storage Redirection サービスを起動します。Firefox または Internet Explorer を Web ブラウザとして使用しているときに 32 ビット JDK ファイルを指定する手順は次のとおりです。

- **Firefox Web ブラウザ:** 次の手順に従い、ILOM の Storage Redirection CLI 機能のサービス起動に使用するファイルとして 32 ビット JDK を指定します。
 - a. ILOM Web ブラウザで、Storage Redirection のサービスを起動します。
 たとえば、「Remote Console」 --> 「Redirection」をクリックし、「Launch Redirection」ページの「Launch Service」をクリックします。

注 – Storage Redirection サービスの起動方法の詳細については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376) の手順「Storage Redirection サービスを起動する」を参照してください。

サービス起動用に選択されているファイルの種類を示すダイアログが表示されます。

- b. このダイアログ (下記の例を参照) で、次の手順を実行します。
 - i. 「Open with...」をクリックして 32 ビット JDK ファイルを指定します。
 - ii. 「Do this automatically for files like this from now on」チェックボックスを選択します。



- **Internet Explorer (IE) Web ブラウザ:** 次の手順を、ILOM で **Storage Redirection CLI 機能のサービスを起動する前に**実行します。ここに示した手順は、ILOM の Storage Redirection サービスに対して 32 ビット JDK ファイルを Windows エクスプローラーを使用して登録する方法の説明です。
 - a. Windows クライアントで、Windows エクスプローラー (Internet Explorer ではありません) を開きます。

- b. Windows エクスプローラーダイアログで、「ツール」-->「フォルダーオプション」を選択し、「ファイルの種類」タブを選択します。
- c. 「ファイルの種類」タブで、次の手順を実行します。
 - i. 登録されているファイルの種類の一覧から、「JNLPL」というファイルの種類を選択して「変更」をクリックします。
 - ii. 「ファイルを開くプログラムの選択」ダイアログの「参照」をクリックして、32 ビット JDK ファイルを選択します。
 - iii. 「この種類のファイルを開くときは、選択したプログラムをいつも使う」チェックボックスを選択します。
 - iv. 「OK」をクリックしてから、ILOM Web インタフェースで Storage Redirection のサービスを起動します。

詳細については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376) の手順「Storage Redirection サービスを起動する」を参照してください。

ILOM リモートコンソールを正常に起動するには 32 ビット JDK が必要

CR 6938720

問題: 64 ビット JDK ファイルが Web ブラウザで指定されていると、ILOM リモートコンソール機能の起動に失敗します。

回避方法: 32 ビットの JDK ファイルを指定して ILOM リモートコンソールを起動します。Firefox または Internet Explorer を Web ブラウザとして使用しているときに 32 ビット JDK ファイルを指定する手順は次のとおりです。

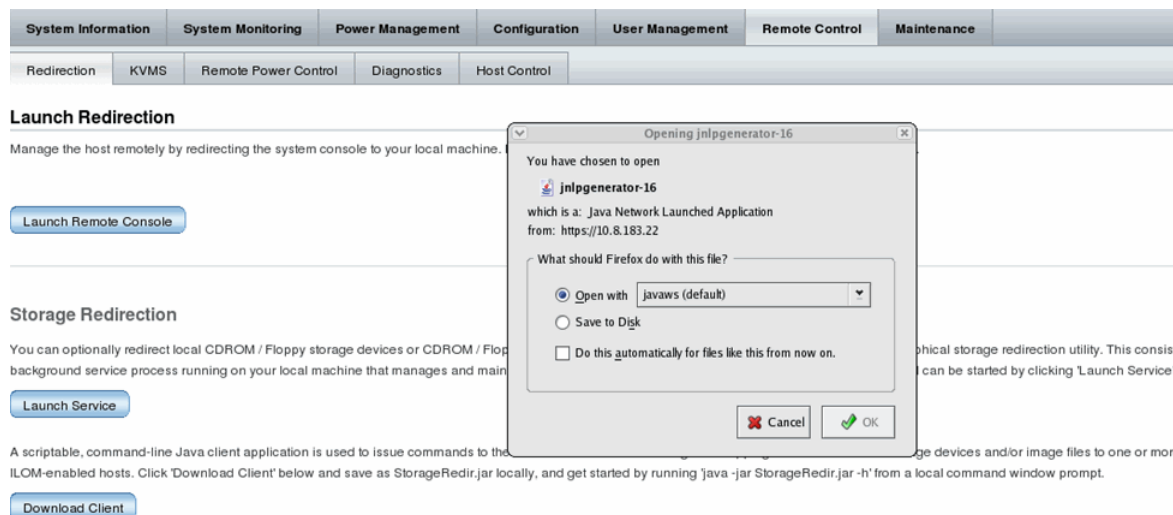
- **Firefox Web ブラウザ:** 次の手順に従い、ILOM のリモートコンソール機能の起動に使用するファイルとして 32 ビット JDK を指定します。
 - a. ILOM Web ブラウザで、ILOM リモートコンソールを起動します。

たとえば、「Remote Console」-->「Redirection」をクリックし、「Launch Redirection」ページの「Launch Remote Console」をクリックします。

注 – ILOM リモートコンソールの起動方法の詳細については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』(820-7370) の手順「Oracle ILOM リモートコンソールを起動する」を参照してください。

プログラム起動用に選択されているファイルの種類を示すダイアログが表示されます。

- b. このダイアログ (下記の例を参照) で、次の手順を実行します。
 - i. 「Open with...」をクリックして 32 ビット JDK ファイルを指定します。
 - ii. 「Do this automatically for files like this from now on」チェックボックスを選択します。



- **Internet Explorer (IE) Web ブラウザ:** 次の手順を、ILOM で ILOM リモートコンソール機能を起動する前に実行します。ここに示した手順は、ILOM の ILOM リモートコンソール機能のための 32 ビット JDK ファイルを Windows エクスプローラーを使用して登録する方法の説明です。
 - a. Windows クライアントで、Windows エクスプローラー (Internet Explorer ではありません) を開きます。
 - b. Windows エクスプローラーダイアログで、「ツール」->「フォルダーオプション」を選択し、「ファイルの種類」タブを選択します。
 - c. 「ファイルの種類」タブで、次の手順を実行します。
 - i. 登録されているファイルの種類の一覧から、「JNLP」というファイルの種類を選択して「変更」をクリックします。
 - ii. 「ファイルを開くプログラムの選択」ダイアログの「参照」をクリックして、32 ビット JDK ファイルを選択します。
 - iii. 「この種類のファイルを開くときは、選択したプログラムをいつも使う」チェックボックスを選択します。

- iv. 「OK」をクリックしてから、ILOM Web インタフェースで Storage Redirection のサービスを起動します。

『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』(820-7370) の手順「Oracle ILOM リモートコンソールを起動する」を参照してください。

Internet Explorer 6 を使用しているときに ILOM Web インタフェースから SP に接続できない

CR 6934155

問題: ILOM での SSL セキュリティーが強化されたため、Internet Explorer (IE) 6 では HTTPS 経由の ILOM SP Web インタフェースを起動することができません。

回避方法: 次のいずれかを実行します。

- Internet Explorer を新しいバージョンにアップグレードしてから ILOM SP Web インタフェースを起動する。
- 別の Web ブラウザ、たとえば FireFox 2.0 を使用して ILOM SP Web インタフェースを起動する。
- ILOM SP CLI で `weak_ciphers` 設定を有効にしてから、IE 6 を使用して ILOM SP Web インタフェースを起動する。

ILOM CLI で `weak_ciphers` の設定を有効にするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/https weak_ciphers=enabled
```

- HTTP 経由の ILOM SP Web インタフェースを IE 6 から起動する。

HTTP 経由の ILOM SP Web インタフェースを IE 6 から起動するには、最初に、ILOM SP CLI で HTTP を有効にするとともにリダイレクトを無効にする必要があります。

ILOM SP CLI で HTTP を有効にしてリダイレクトを無効にするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/http secureredirect=disabled servicestate=enabled
```


第8章

ILOM 3.0.12 および ILOM 3.0.14 ファームウェアに対する更新

この章では、ILOM 3.0.12 および Oracle ILOM 3.0.14 のファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順に加えて、既知および解決済みの問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章のトピックは次のとおりです。

- [56 ページの「ILOM 3.0.12 および ILOM 3.0.14 の新機能」](#)
- [57 ページの「ILOM 3.0.14 の時点で解決済みの問題」](#)
- [64 ページの「ILOM 3.0.14 の時点で既知の問題」](#)

ILOM 3.0.12 および ILOM 3.0.14 の新機能

次の表に、ILOM 3.0.12 および ILOM 3.0.14 の各リリースで追加された新機能を記載します。各機能の説明が記載されている ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

項目	
説明	参照先
ILOM 3.0.12 で、新しいデュアルスタック IPv4/IPv6 設定を追加 (IPv4 および IPv6 のネットワーク環境で ILOM を完全に動作させるための設定)	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ILOM のネットワーク設定」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ILOM の通信設定」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「ILOM の通信設定」
ILOM 3.0.14 で、SPARC サーバーの LDom 設定を表示および管理するための新しい ILOM CLI/Web インタフェースを追加	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「リモートホスト管理オプション」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「SPARC サーバーでの TPM と LDom の状態の管理」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「SPARC サーバーでの TPM と LDom の状態の管理」
ILOM 3.0.12 で、新しい通信チャンネル「ローカル相互接続インタフェース」を追加 (ホスト OS からローカルで ILOM と通信するための機能。サーバーへのネットワーク管理 (NET MGT) 接続を使用せずに通信できる)	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ILOM のネットワーク設定」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ILOM の通信設定」『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「ILOM の通信設定」
ILOM 3.0.14 で、Oracle Sun でサポートされる CIM クラスの名前を Sun_xxx から Oracle_xxx に変更	<ul style="list-style-type: none">『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』の「Oracle Sun でサポートされる CIM クラス」

ILOM 3.0.14 の時点で解決済みの問題

ここでは、ILOM 3.0.14 リリースの時点で解決済みとなっている問題について説明します。各問題固有の変更依頼 (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

項目	
説明	リンク
BIOS アップグレードがすぐに行われない	<ul style="list-style-type: none">58 ページの「SP 再起動後、BIOS アップグレードがすぐに行われない」
外部シリアルポート設定がリセットされない	<ul style="list-style-type: none">59 ページの「外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセットされない」
1 時間平均消費電力に 1 時間未満の増加分が反映されていない	<ul style="list-style-type: none">59 ページの「1 時間ごとの平均電力のタイムスタンプに 1 時間未満の増加分が反映されない」
Windows クライアント上で ILOM リモートコンソールがハングすることがある	<ul style="list-style-type: none">59 ページの「CD-ROM イメージやフロッピーイメージをリダイレクトするときに、Windows クライアントで ILOM リモートコンソールが停止することがある」
ILOM ファームウェアのアップグレード後にホスト電源状態を取得できない	<ul style="list-style-type: none">60 ページの「ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない」
設定作業後にアクセスページエラーが表示される: 不明なセンサー LED ステータス	<ul style="list-style-type: none">60 ページの「設定作業後のアクセスページエラー: システムを IPMItool から監視するときに不明なセンサー LED ステータスが表示される」
バックアップ/復元後にコンソールエラーが表示される	<ul style="list-style-type: none">60 ページの「バックアップと復元の実行後にコンソールエラーが表示される」
Windows Server 2008 R2 のシステムイベントログに警告メッセージが出力される	<ul style="list-style-type: none">61 ページの「ILOM Power Management で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 によってシステムイベントログに警告メッセージが生成される」
ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生することがある	<ul style="list-style-type: none">61 ページの「ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生する」
HIA を使用して ILOM をアップグレードするときに ILOM のバージョンが表示されない	<ul style="list-style-type: none">61 ページの「HIA を使用して ILOM を帯域内管理インタフェースからアップグレードするときに ILOM のバージョンが表示されない」
SP ファームウェアのダウングレードまたはアップグレード後に DIMM FRU データフィールドが空白になる	<ul style="list-style-type: none">62 ページの「SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる」

項目

説明	リンク
IE Web ブラウザを使用しているときはサービススナップショットユーティリティで SP データを収集できない	<ul style="list-style-type: none">62 ページの「IE Web ブラウザのセキュリティオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティで SP のデータを収集できない」
64 ビット JDK の使用時は ILOM CLI Storage Redirection の起動に失敗する	<ul style="list-style-type: none">63 ページの「Storage Redirection には 32 ビット JDK が必要であることを説明するドキュメントの更新」
64 ビット JDK の使用時は ILOM リモートコンソールの起動に失敗する	<ul style="list-style-type: none">63 ページの「ILOM リモートコンソールには 32 ビット JDK が必要であることを説明するドキュメントの更新」
DVD リダイレクトに手動マウントが必要になる	<ul style="list-style-type: none">63 ページの「Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトに失敗し、手動マウントが必要になる」
IE 6 を使用しているときは ILOM Web インタフェースから SP に接続できない	<ul style="list-style-type: none">64 ページの「Internet Explorer 6 を使用しているときに ILOM Web インタフェースから SP に接続できない」

SP 再起動後、BIOS アップグレードがすぐに行われない

CR 6813514

問題: SP ファームウェアをアップグレードするときに、BIOS ファームウェアをすぐにアップグレードするか、BIOS アップグレードをあとで行うかを選択できます。BIOS をすぐにアップグレードすることを選択した場合は、SP ファームウェアがアップグレードされ、ホストの電源が強制的にオフになり、SP が再起動します。BIOS アップグレードをあとで行うことを選択した場合は、SP ファームウェアがアップグレードされて SP が再起動します。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。回避方法については、11 ページの「SP 再起動後、BIOS アップグレードがすぐに行われない」を参照してください

外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセットされない

CR 6676339

問題: `reset_to_defaults` コマンドを使用すると ILOM 設定をデフォルト値にリセットできます。ただし、外部シリアルポート設定は `reset_to_defaults` の実行時にリセットされません。

更新: シリアルポート設定は、`reset_to_defaults` 動作の実行時に出荷時のデフォルトである 9600 ボーレートに戻されるようになりました。

1 時間ごとの平均電力のタイムスタンプに 1 時間未満の増加分が反映されない

CR 6803961

問題: CLI を使用して CMM にログインしたときに、1 時間ごとの電力履歴の中にタイムスタンプが 1 時間進んだ時刻になっているものがあります。このエントリは、前回のタイムスタンプから現在までの平均電力を表しています。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。この問題に対する回避方法はありませぬ。

CD-ROM イメージやフロッピーイメージをリダイレクトするときに、Windows クライアントで ILOM リモートコンソールが停止することがある

CR 6806444

問題: Windows クライアントを使用して CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージを ILOM リモートコンソールからリダイレクトするときに、ILOM リモートコンソールが応答しなくなることがあります。

更新: この問題は修正済みです。

ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない

CR 6858008

問題: SP ファームウェアを ILOM 2.0 から 3.0 に更新すると、アップグレード完了後は ILOM Web インタフェースでリモートホストの電源状態を取得できなくなることがあります。この問題が発生した場合は、「Remote Power Control」タブに空白のページが表示されます。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。回避方法については、[30 ページの「ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない」](#)を参照してください。

設定作業後のアクセスページエラー: システムを IPMItool から監視するときに不明なセンサー LED ステータスが表示される

CR 6848980

問題: IPMItool を使用して Oracle サーバーを監視しているときに、不明なセンサー LED ステータスが ILOM Web インタフェースに表示されます。この問題が発生する可能性があるのは、SP と IPMI KCS インタフェースが同時にオペレーティングシステム (OS) から実行されているときです。このような設定の結果として、IPMI メッセージが SP にオーバーロードされます。

更新: これは報告済みであり、ILOM 3.0.6 で修正されました。

バックアップと復元の実行後にコンソールエラーが表示される

CR 6847309

問題: ILOM 設定のバックアップと復元の実行後に、次のコンソールエラーメッセージが表示されることがあります。

```
bind (udp): Address already in use
```

更新: これは ILOM 3.0.6 の既知の問題として報告済みです。このエラーメッセージは無視できます。ILOM 3.0.10 の時点では再現不可能になっています。

ILOM Power Management で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 によってシステムイベントログに警告メッセージが生成される

CR 6881284

問題: ILOM Power Management 機能によって電力が制限されているときに、プロセッサが制限されていることをユーザーに知らせる警告メッセージが Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムのシステムイベントログに出力されます。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。この問題に対する回避方法はありません。

ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生する

CR 6870530

問題: ILOM CLI または Web インタフェースで、ストレージ監視情報が表示されるまでに、または最新の状態に更新されるまでに、最大 5 分間の遅延が発生することがあります。この遅延が発生するのは一般的に、次に示す作業のあとです。

- ILOM 3.0.6 以降にアップグレードし、必須の System Management Pack をインストールした。

または

- RAID またはディスクの情報が更新されたあとでシステムに対するクエリーを実行した。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。この 5 分間の遅延が発生するのは、必須の System Management Pack のインストール後やシステムに対する RAID またはディスクの更新後に限られます。

HIA を使用して ILOM を帯域内管理インタフェースからアップグレードするときに ILOM のバージョンが表示されない

CR 6867109

問題: ILOM を Oracle Hardware Installation Assistant (HIA) から帯域内インタフェースを使用してアップグレードするときに、Oracle サーバーによっては、実行中の ILOM のバージョンが HIA の画面に表示されないことがあります。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。ILOM Web インタフェースを使用して実行中の ILOM のバージョンを判別します。

SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる

CR 6913593、6850456、および 6916007

問題: プラットフォームサーバーによっては、ILOM SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でアップグレードまたはダウングレードするときに Delay BIOS Update オプションを有効にしていると、ILOM の DIMM FRU データフィールドの表示が空白になることがあります。

更新: これは ILOM 3.0.9 の既知の問題として報告済みです。この問題は ILOM 3.0.9 の時点で修正されており、回避方法の手順が『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』に追加されています。回避方法については、[42 ページの「SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる」](#)を参照してください。

IE Web ブラウザのセキュリティーオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティーで SP のデータを収集できない

CR 6877868

問題: Internet Explorer (IE) Web ブラウザのセキュリティーオプションのうち、「暗号化されたページをディスクに保存しない」が有効になっている場合は、サービススナップショットユーティリティーを使用して SP データを収集しようとしたときにエラーメッセージが表示されます。

更新: これは ILOM 3.0.9 の既知の問題として報告済みです。この問題は ILOM 3.0.9 の時点で修正されており、回避方法の手順が『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』に追加されています。回避方法については、[43 ページの「IE Web ブラウザのセキュリティーオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティーで SP のデータを収集できない」](#)を参照してください。

Storage Redirection には 32 ビット JDK が必要であることを説明するドキュメントの更新

CR 6938720

問題: ILOM の Storage Redirection CLI 機能のサービスを起動するときに、64 ビットの JDK ファイルが指定されているとサービスの起動に失敗します。

更新: 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』(820-7376) に追加された手順の中で、FireFox または Internet Explorer を Web ブラウザとして使用するときに 32 ビットの JDK ファイルを指定するようユーザーに指示しています。

ILOM リモートコンソールには 32 ビット JDK が必要であることを説明するドキュメントの更新

CR 6938720

問題: 64 ビット JDK ファイルが Web ブラウザで指定されていると、ILOM リモートコンソール機能の起動に失敗します。

更新: 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』(820-7370) に追加された手順の中で、FireFox または Internet Explorer を Web ブラウザとして使用するときに 32 ビットの JDK ファイルを指定するようユーザーに指示しています。

Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトに失敗し、手動マウントが必要になる

CR 6876387

問題: DVD (物理ドライブまたはイメージファイル) を Oracle Solaris から Red Hat Enterprise Linux (RHEL) にリダイレクトするときに、フロッピーと CD-ROM のアイコンは RHEL に表示されますが、CD-ROM アイコンをクリックしても DVD のコンテンツを見ることができません。

更新: これは ILOM 3.0.10 の既知の問題として報告済みです。この問題は ILOM 3.0.10 の時点で修正されており、回避方法の手順が『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』に追加されています。回避方法については、[49 ページの「Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトに失敗し、手動マウントが必要になる」](#)を参照してください。

Internet Explorer 6 を使用しているときに ILOM Web インタフェースから SP に接続できない

CR 6934155

問題: ILOM での SSL セキュリティーが強化されたため、Internet Explorer (IE) 6 では HTTPS 経由の ILOM SP Web インタフェースを起動することができません。

更新: これは ILOM 3.0.10 の既知の問題として報告済みです。この問題は ILOM 3.0.10 の時点で修正されており、回避方法の手順が『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』に追加されています。回避方法については、53 ページの「[Internet Explorer 6 を使用しているときに ILOM Web インタフェースから SP に接続できない](#)」を参照してください

ILOM 3.0.14 の時点で既知の問題

項目

既知の問題は報告されていません。
